

ISSN 0388-5569

LIBRARY
NEWS

山口大学附属図書館報

Yamaguchi University
Library Bulletin

2002.SEP

Vol.23
No.1

真夏の昼の夢 - 2022年7月、図書館のロビーにて -

工学部分館長 溝田 忠人

・・・・あれから20年、当時40代前半だったが来春停年である。春には存在を誇示したソメイヨシノの並木は、歯が欠けたように老木を残し、南京ハゼ、クロガネモチ、楠、櫻は堂々と育って緑陰を広げた。建て直されなかった図書館は、ツタが這い登って貫禄がついた。津波のような大学の法人化も、政権が変わり、正に波の引くように静まった。改革の二番手を走った山口大学は法人化した。しかし、何も変わらなかった。研究と教育の評価の見直し、大学の特色、特に大学院の実績が厳しく問われ続け、教職員の多くが疲弊した。収入の確保が難しい大学財政は理事会の手におえず、結局、文部科学省の軌道修正に従って進むしかなかった。科学技術に、市民の憧れが残っている内はまだ良

かった、次第に反発から敵意まで誘発し、必然的に政策は見直され、予算は削減、民間資金導入もままならなかった。一方、法人化に乗り遅れて合併し、国立のまま残った伯雲大学に、気の利いた教官や、優秀な学生まで持って行かれる事態になって「国立」という冠詞のブランド性に初めて気づいた。理系にも研究費は無く、学生の人気も勉学意欲も低かった。唯一の例外は、情報工学の財テク理論分野だったが、難解な理論と街の占い屋の予想との的中率に差がないことが頭痛の種だった。年々進行する温暖化、黄砂、政・財・官・学者の腐敗、キャンパスにも麻薬汚染、暴力・犯罪が横行し、落日の学園には浮浪者の溜まり場まであった。

起死回生の転機は、苦し紛れの教職員の研究



会から始まった。何かがおかしい、人間として、この苛立ちの本質を突きたい。若干臭かったが「世界の再生に科学は無用か」を合言葉に作業が始まった。当時の難問が洗いざらい拾い出され、分析が始まった。辛うじて、大学には人材が揃っており、ここまで来れば怖い物は何も無く、幸いにも他にすべき何物も無かった。

図書館のテーマは、「学術情報と大学の役割」だった。情報ネットワークは世界と個人を縦横に結び、水や空気と同様のツールを誰も意識さえしなかった。しかし、この分野は世界的に混乱を極めていた。科学技術情報はオトラクアト口社のコンソーシアムに集約され、大学は莫大な使用料を払っていた。或る時、そのシステムが、ネットプリオンの攻撃で破壊され、データが消えてしまった。世界は、知識情報の蒸発を経験して、倉庫の廃棄寸前の冊子体から文献を掘り起こす作業を始める始末だった。数年して消えたはずのデータが、ベンチャー企業サイトから高額で切り売りされ始め、成長の限界を感じた会社の自作自演だったとの噂だった。そのような中で、研究会は「学術情報は全世界の人が等しく共有する」、「知的所有権は公開する、大学のかかわる研究成果は全て公表する」という結論を出した。今考えると、知識の資産化と、それに伴う秘密・独占こそが、世界の停滞と混乱の本源であり、特許侵害の恐れから、企業や大学は新しい科学技術に積極的に取り組めず、リスクの大きいテーマにも挑戦できず、停滞に拍車をかけていた。

経済の分野では「投機はバクチの一種、科学を離れた金融制度は破棄すべき」との結論をまとめた。教育の分野では「子供の成長・発達と暴力・平和」の重要性から、自然環境整備に工学・農学分野の協力を要請した。医学では「脳内物質代謝と環境」の議論が進み、食物、化学物質、音楽、映像等のストレスからの逃避や刺激を求めて麻薬依存まで進む若者の実態を解明した。科学技術教育の分野では、「一般常識と科学技術の間の溝」が中心課題であった。多くの教科書・参考書

の曖昧な記述がチェックされ、剽窃系譜図が作られ、論理体系が組み直された。その結果、各分野でオリジナル教科書の執筆の必要性が認識され、各講義の実践パンフレットを利用した教科書が編纂され始めた。

最も重要な指摘は、工・農・経済の共同研究からなされた、地域の物質循環、環境とコストの課題が追求され、「最適コミュニティー」の概念にたどり着いた。衣食住を満たす地域の人口と面積には最適値が存在し、その規模は、生産力や科学技術の発展の程度ではなく、太陽エネルギーの量、地形、運搬エネルギーに依存するという、しごく当たり前の結論であった。

研究会では、これらの議論の中身を、順次ホームページで公表しようと提案したが、理事会は、結論を出せないでいた。混乱の中で、図書館職員のパソコン内に集められていた検討内容が、ハッカーによって盗まれ公開されてしまった。理事会の議論は、この職員をどう処分すべきかに移った、こうして2012年の夏を迎えた。

突如、異変が起こった。その年のAO入試の志願者が例年の3倍に膨らみ、次の春の入試志願者も5倍増した。早速、理事会は分析を始めた。なんと、山口大学の研究会の検討内容に希望を見出した教師や親が受験生を説得しているという結果だった。大学における苦悩は、世間でも同じように、悩み、模索していた。専門家のいる有利さから、崖っぷちの山口大学が一步先にその本質を突いた論議を始め、そこに市民が活路を見出したのであった。一転その図書館職員は、学長表彰となった。

7月の蝉の声は相変わらずだが、今は、定期試験は無い。成績評価は完全に教員の裁量である。「昔はカニングというのがあった」というのが、年配の教員の講義の脱線ネタである。実力の伴わない評価など今の学生には信じられない。キャンパスには様々な人種の大学生が行き交い、夏休みには講座、研修が目白押しで、近隣の子供が市民と共に循環バスでやって来る。

図書館には、電子図書も完備しているが、本



も溢れている。人間科学の成果により、ペーパー図書が復活した。情報の検索や入手は個人で可能なので、図書館は主に、研究方法の相談を受けたり、本を読んだり、討論する場である。これも人間医工学の成果で、科学的学習法が確立し、学生が読書、討論する意義が推奨されるからである。古い書籍のカビの匂いが知的活性化に有効であると解明したのも、本学の農学部グループであった。読后感がデータベース化され、良い本には感想が批判も含めて山のようになり、これを検索するのも楽しみである。隣には、この10年間で大学に建った最大の建物、図書館所管の博物館がある。地上は図書館と変わらないが、地下の10倍ものスペースには、研究資料を収蔵し、豊富な展示は市内観光の目玉になっている。

最近の注目は知的所有権に関する認識であろう。音楽、著作、特許などの独占が、人類文化の発展を阻害する面が強いとして、占有期間が大幅に短縮された。知的所有権を大学に寄付し個人の権利を放棄する人が多くなった。20年前、新薬は患者のために使うべきか、製薬会社の利益を優先すべきかという議論は、今は漫才ネタである。以前、世界を支配したگران・デュロ社のソフト「ベンターナス」は、儲けすぎた社長の気まぐれで、数年前に会社が解散し、今は、世界中のNPOが国連機関と連携し、寄付されたソフトを管理維持している。安全も十分に確保され、そこでは大部分の学術情報も扱っている。わが図書館は、その支部でもある。

現在は「価値の規準を必ずしも金銭に換算しない」との認識が広まり、当然、評価は多様になった。各市町村は、その地域の文化的発展に寄与したアイデアの提案者を顕彰しているが、受賞者が必ずしも地域の人では無い。情報交換の容易さは、地域の壁を無くしたが、返ってその特色が鮮明になった。気候、地勢、植生、歴史、何よりも住人の特性が前面に出てきた。

3月が年度末であることは検討の対象になったことがある。しかし、すったもんだの議論の拳句、「桜の咲く4月が新学期だよ」という、老

教授のつぶやきで決着した。完全単位制と世界中の大学との単位互換制のおかげで、卒業式は名目化し、学園祭の一つとなり、その年の卒業生や在校生が世界中から集って盛大に祝う。

私の退職後も、結構充実する予定である。図書館で情報の分析のボランティアに週2日、1日は初年度生の学習支援アドバイザーをする。これは学生の疑問にとことん応えるので自分にも勉強になる。数週間かけて、議論を尽くすと、その分野の最高峰に行き着くことも多い。現任教員も参加するこのゼミが、研究テーマを発展させ、大学の学問・研究のレベルを支えるとは、若い知の資源が、こんな身近に満ちているとは、昔は思いもよらず、競争相手選びを誤解していた。勿論これは単位になる。

大学の喫茶店で暇つぶしも良い、15年程前に地球工学教室が構内に掘り当てた温泉の露天風呂つきクラブハウスも使える。この小さな町には世界に発信することなど無いと思っていた。最適コミュニティーの概念が発展し、衣食住、エネルギーの全ての自給を基本とする社会では、個々の町の取り組みが世界の多くの模範にもなる。一つのコミュニティーが全ての能力を必要とし、かつ本州の西端という風土が特色を発揮する。この変化は世界維新なのだろうか、明治維新と同じ、この地がまた震源地を担ったのだろうか、もう10年もすれば分かるだろう。日本海の内側、今秋ワールドカップサッカー開催国のロシア、その優勝候補筆頭と目される統一した高麗、盛りは過ぎた感のある超大国中国の影響も追い風になって、20年前には思いもよらなかったが、今や日本はぐるりと西を向いた。

教職員数は、ボランティアを含めて20年前の3倍、学生数は3分の1になった。しかし、文化的気風に満ち、経営も安定しているのは、何よりも、コミュニティーと世界がこの大学を必要とし、世界中の学生や知の探求者と繋がっているからである。大学間の競争は、今や問題外だ、山口大学萩校舎では、「伝統文化学及び実習」の単位を取るため多数の伯雲大生も陶土にまみれて奮闘して・・・（みぞただと）



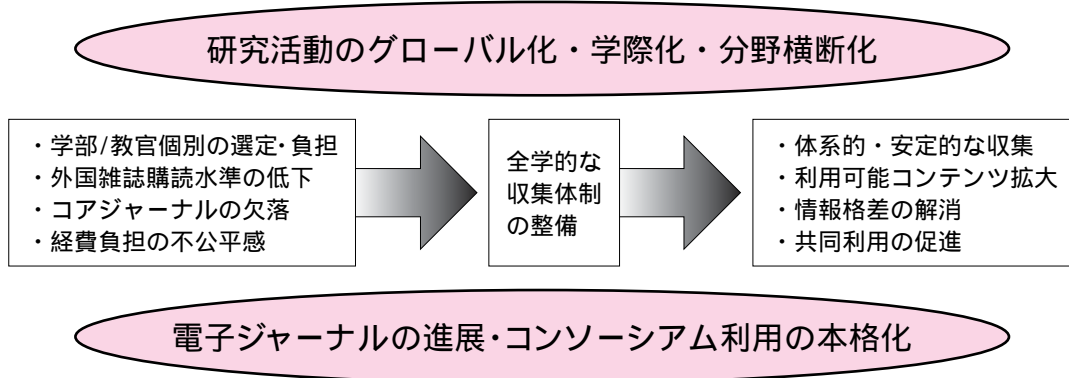
小特集 / 電子ジャーナルコンソーシアム 全学的な外国雑誌収集体制整備に関するQ & A

附属図書館は、大学の研究教育活動を支える学術情報基盤として重要な研究基盤資料を、(1) 電子ジャーナルを含む研究基盤雑誌 (2) 全学共通及び分野共通のデータベース (3) 研究基盤図書 の3区分に整理し、その整備方針をまとめ (平成14年2月「研究基盤資料の整備方針について」)、実施に向けた具体的な検討を進めています。

このうち、(1) については、全国的な電子ジャーナルコンソーシアムが急速に本格化し、電子ジャーナル共同利用の可否がそのまま大学間の情報格差に直結する状況にまで進展してきました。2003年の外国雑誌予約に際して、コンソーシアム参加条件をクリアできるか否か、これは本学の研究基盤にとっての緊急課題です。

附属図書館長は、知識情報委員会において、外国雑誌を収集する全学的な体制の必要性と緊急性を説明し、体制整備を全学的に進めること及び2003年外国雑誌の継続維持について、各学部長に協力を要請しました。ここでは、各学部等から出された質問・疑問をQ & A にまとめて紹介します。

外国雑誌を全学的に収集する体制整備の必要性・緊急性



Q . 電子ジャーナルコンソーシアムに参加する
とどのようなメリットがありますか？

A . コンソーシアムは、複数の図書館が共同して、より有利な特別条件 (価格及び利用範囲等) を引き出して電子ジャーナル等の情報資源を利用しようとするものです。国立大学図書館協議会が、国立大学を代表して交渉しており、現状の購読水準を維持することで、利用できる雑誌を飛躍的に拡大することができます。2002年には、5大出版社 (Elsevier・Academic・Blackwell・Springer・Wiley) のコンソーシアムが成立していますが、これに全て加盟すると、山口大学購読数約400点に対して、利用でき

きる電子ジャーナルは2,500点以上となります。

Q . 電子ジャーナルコンソーシアムに参加するための条件とは何ですか？

A . 出版社によって多少異なりますが、現状の冊子体購読水準を大学全体として維持することが参加の条件となっています。

Q . コンソーシアムに参加して利用できる電子ジャーナルに人文・社会科学系の雑誌は含まれていますか。

A . 前記の5大出版社と2003年に向けて交渉中のKluwer社を併せて、人文・社会科学系雑誌は全体の30%、1000点程度が含まれています。コンソーシアム参加で利用でき



る電子ジャーナルには、山口大学が最近、主に予算的な事情でやむなく購読中止したものが多数含まれています。

Q . 他大学に比較して、山口大学の外国雑誌購読水準は、どのような状況ですか

A . 図1-2に最近10年間の購読数と経費の推移を示します。購読点数は平成14年度1910点、ピーク時から約40%、1000点以上の減、経費は平成13年度約156百万円、ピーク時から2年間で20%以上、40百万円の急減となっています。

全国的にも雑誌購読点数は減少傾向にありますが、図3に示すとおり、山口大学の減少は平均を上回っています。

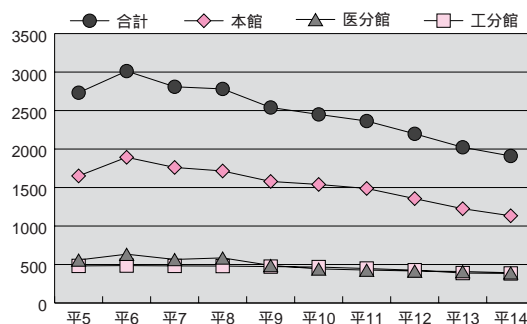
Q . 外国雑誌は学科や教官個人が研究遂行上必要なものを選定している。全学化によって新規購読などへの柔軟さが失われるのではないか。

A . 外国雑誌をめぐる環境が、電子ジャーナルの出現やコンソーシアム利用本格化で急変しています。従来「学科・教官個人が選定、負担」では、「全学利用できるものに、何故特定個人や学部が全て負担するのか」という不公平感が拡大する事態に至っています。速やかに、電子ジャーナル、コンソーシアムに対応した収集体制を構築する必要があり、全学的な雑誌選定方法、選定組織が必要です。今後附属図書館から具体的な提案を予定していますので、前向きにご検討いただきたい。

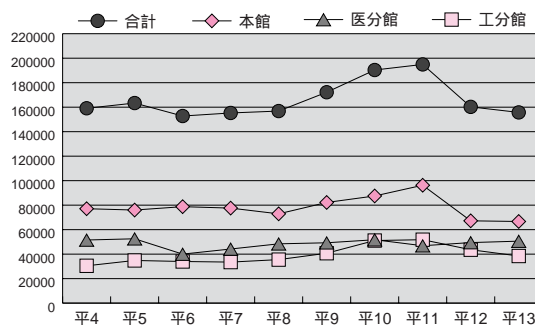
Q . 全学的な収集体制の必要性・緊急性は理解できるが、外国雑誌は毎年値上りしており、経費負担が無制限に増加するのではないか。

A . 外国雑誌の値上りの基本的な要因として、世界的な研究者増加 発表論文数増加 雑誌の頁増、刊行回数増という構造があります。しかし、この構造とは別に、一部の商業出版社が刊行する高額雑誌の存在があり、大手の商業出版社は、中小の学術出版社を吸収統合するなど独占的な地位を固めてお

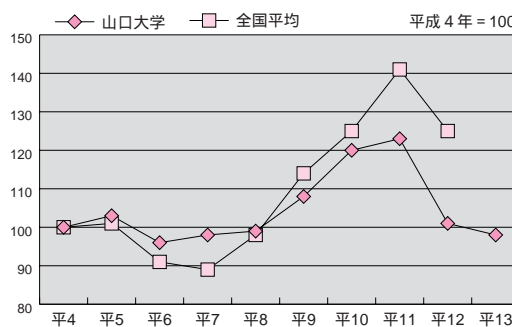
り、外国雑誌経費負担増の主因となっています。(本学では、主要5社の雑誌の点数比20%に対して金額比50%以上) 経費負担増を止めるには、まず、主要出版社に価格政策の変更を求めする必要がありますが、これに対してもユーザ側の共同組織であるコンソーシアムは重要な役割を持ちます。山口大学として負担しうる金額に限界があることは当然ですが、現状の本学の外国雑誌への投資水準が全国平均を下回っていることも事実です。本学の負担しうる金額規模や負担のあり方について、早急に全学的な合意が必要となっています。



(図1) 山口大学外国雑誌購読数の推移



(図2) 山口大学外国雑誌経費の推移



(図3) 外国雑誌経費の推移 (指数比較)



小特集 / 10月から引用文献データベース Web of Scienceが利用できます。

平成14年10月からWeb of Scienceの提供を開始します。附属図書館をはじめ、複数の部局が緊急の導入を要望し、今年度の学内教育研究重点化経費で認められたものです。Web of Scienceは、既に6月19日開催の附属図書館学術セミナーで紹介し、7月中旬まで実施したトライアルでも多くの教官・大学院学生が利用されていますが、改めて、その特長等をお知らせします。

Web of Science (WOS) の概要

WOSは、米国ISI社 (Institute of Scientific Information) が作成する自然科学引用索引 (SCIE : Science Citation Index Expanded)、社会科学引用索引 (SSCI : Social Sciences Citation Index) 及び人文科学引用索引 (A&HCI : Arts & Humanities Citation Index) の3つのデータベースの総称です。ISI社は、Current Contentsなど学術二次情報の専門出版社で、WOSは、世界的に影響力が高い約8,500の学術雑誌掲載の年間110万件の文献情報が毎週追加される世界最大の文献情報データベースです。

Web of Science (WOS) の特長

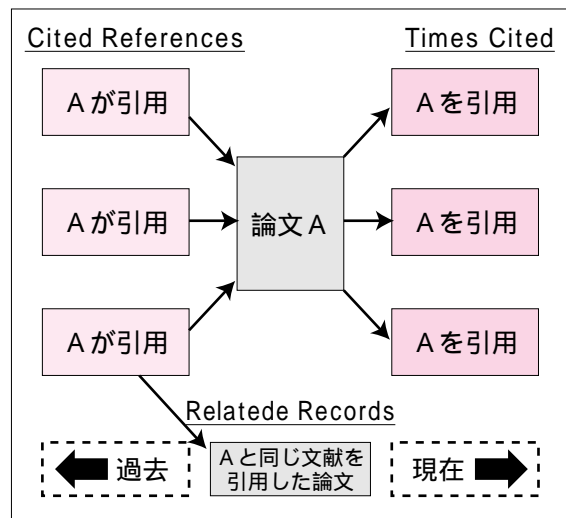
1. 自然・社会・人文科学の全てにわたる分野を対象としたデータベースであり、包括的、学際的な検索が可能。230以上の学際的分野を対象として検索できます
2. 引用文献検索という独自の検索方法 (特定の論文が引用した文献Cited References、逆に当該論文を引用した文献Times Cited、当該論文と引用文献を共有する文献Related Records) が可能。
3. 電子ジャーナルへのリンク機能を持ち、ボタンひとつで当該論文の全文表示が可能。

引用文献検索のメリット

WOSでは、文献の論題、著者、著者所属機関、抄録、キーワードのほか、引用情報が収録されています。このため、引用関係をボタンひとつで過去から現在へ、現在から過去にと芋づる式に辿ることができます。これにより、特定

論文が世界の研究に与えた影響、基礎理論が応用される過程、先行理論の発展や変更の確認などが効率的に行えます。

引用索引の概念図



10月からのWOS導入の範囲

このようにWOSは、世界最大の有用な学術情報データベースですが、非常に高価であるという大きな難点があります。

今回、山口大学が導入するのは、自然科学引用索引 (SCIE : Science Citation Index Expanded) 1997-2002年分です。社会科学、人文科学の導入については、現在検討を進めています。

WOS利用講習会の開催

附属図書館では、WOS利用講習会を3地区で開催する予定です。実施日程等は、決まり次第、図書館ホームページ等でご案内します。

教官、大学院学生、学部学生を問わず、多数の方々の参加をお待ちしています。



Web of Scienceに関するQ & A

WOSに関する質問が、附属図書館に多く寄せられています。
主なものを以下にご紹介します。

- Q . WOSは研究室からも利用できますか？
- A . 山口大学のYU-Netに接続しているパソコンであれば、どこからでも、24時間いつでも利用できます。特別の検索ソフトは不用でWebブラウザからアクセスできます。附属図書館のホームページからアクセスして下さい。
ご自宅のパソコンからは、利用できません。
- Q . IDやパスワードは必要ですか？
利用料金はどうなっていますか？
- A . 大学として契約していますので、IDやパスワードは不要です。WOSに係る経費は全学の重点化経費から予算措置されており、個々の利用者から、検索の都度、料金を徴収することは予定しておりません。
- Q . WOSから電子ジャーナルが使えるとのことですが？
- A . WOSは論題やキーワード、著者、引用関係等から必要な文献を探し出すためのデータベースですが、格納されている文献には、個別に対応する電子ジャーナルのFull Textにリンクが貼られています。このため、ボタンひとつで検索結果から本文閲覧が可能です。
この機能は、山口大学が当該電子ジャーナルを契約している範囲で利用できます。
- Q . 本学のWOS契約は1997年以降とのことですが、それ以前の論文について、引用関係は迎れるのですか？
- A . 当該論文の引用文献Cited References（前ページ図参照）は、契約外の年のものを含めた件数及びリストが表示され、契約内の年であれば、文献リストからリンクを辿って各文献の詳細情報を見ることができます。導入直後は、1997-2001年の5年分+2002年途中までのデータですが、毎年、迎れる範囲が拡大していくとお考え下さい。
- Q . 最新の文献に絞った検索ができますか？
- A . WOSには毎週データが追加されますが、最新の週、最新2週間、最新4週間、特定の年及び年代を指定した検索ができます。定期的に新しい文献のみをチェックする場合に便利です。
- Q . WOSには、非英文誌、日本の国内誌は含まれていますか？
- A . WOSの収録対象誌は、掲載論文の質的な評価のほか、英文の論題、引用情報、Abstractがあることが条件となっています。したがって、収録誌は英文雑誌が中心です。ただし、文献の本文は英語以外でも、引用影響度が高い雑誌は収録されています。掲載誌のリストは、以下を参照下さい。
(<http://www.isinet.com/isi/journals/index.html>)
- Q . 雑誌のImpact Factorとは何ですか？
- A . 当該雑誌に掲載された文献が、他の文献に引用された件数に基づき、算出される学術雑誌の評価指標のひとつです。一般的にはImpact Factorが高い雑誌は、High Qualityであるとされます。
Impact Factorは、JCR (Journal Citation Reports) というデータベースで調べることができます。附属図書館の本館・分館の専用端末で利用できますので、カウンターにお尋ね下さい。
- Q . 日本国内誌について、引用索引はないのですか？
- A . 日本では、国立情報学研究所が自然科学系の学協会誌を対象とした引用文献索引データベースを作成し、NACSIS-IRで提供しています。



平成14年度図書館利用ガイダンス（4月～7月）

附属図書館では、平成12年度以降、図書館利用ガイダンスの充実に努めてきました。「情報の利活用能力は、自主的な学習を進め、課題を＜発見し・はぐくみ・かたちにする＞、即ち、大学で学ぶためには必須のものである。情報利活用能力の基本は、図書館利用の達人になることから始まる」との考えからの大方針です。目標である「新入学生の全員受講（とりあえず延べではあるが、2000名）」にもかなり近づきつつあります。

秋以降にも、様々な利用ガイダンスをご案内しますので、積極的にご活用下さい。

【本館】

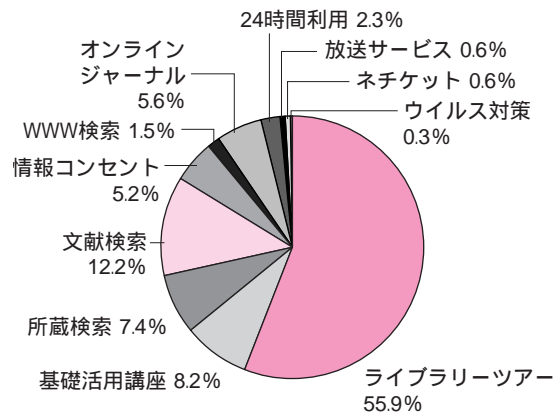
平成14年度、本館は、これまで実施していた学部別新入生オリエンテーションへの出張説明は中止し、実際に館内を案内することに力を置いた。「初期セミナー」「情報処理」などのクラスを単位とするガイダンス受講も定着しつつあるが、なお、学部別に凸凹がある。

図書館が用意したメニュー別の参加者数と参加者の学部別内訳を示す。

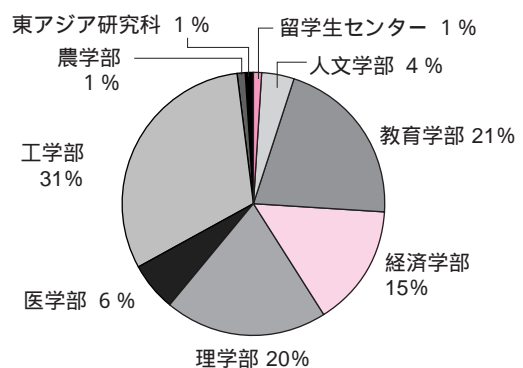


ガイダンスメニュー	参加人数
ライブラリーツアー	882
基礎活用講座	129
所蔵検索講習会	117
文献検索講習会	193
情報コンセント利用講習会	82
WWW検索基礎講座	24
オンラインジャーナル講習会	89
24時間利用ガイダンス	37
山口大学放送サービス利用講習会	10
ネチケット講習会	10
ウイルス対策を学ぼう	4
計	1577

メニュー別参加者数



参加者学部別内訳



学部等	参加人数
人文学部	70
教育学部	326
経済学部	232
理学部	320
医学部	90
工学部	503
農学部	14
東アジア研究科	8
留学生センター	14



なお、今年度は新たに受講者への簡単なアンケートを実施した。その結果を簡単に報告する。

ガイダンスへの全般的な反応は、「理解できた」887名(69.3%)「説明不足」80名(6.3%)「どちらともいえない」313名(24.4%)。(回収数1280名)自由記述欄には、以下のような感想が見られる。

「実際に歩いて見ることができて良く分かった」「口だけの説明だけでなく、その場所まで行ったので分かりやすかった」「所蔵検索などのメニューは、ホームページから全て利用できるので、実際に使ってみたい」「実習ができたので分かりやすかった」「やさしめの課題なので分かりやす

かった」「時間がなくて全てを理解することは無理でしたが、大体分かったので利用するうちに慣れるだろう」「専門用語が説明の中に出てきて意味が分からなかった」「パソコンを使うのが難しかった」

受講者のコメントは、概ね、好意的なものがあるが、説明内容や方法になお工夫する余地がある。秋以降は、文献検索(データベース)、電子ジャーナルの講習会を主に企画しているので、積極的に参加してほしい。

(講習会情報は、適宜図書館ホームページに掲載します。)

【医学部分館】

平成14年度前半のメニューと実績を示す。

図書館オリエンテーション 0.5時間

4月8日 学部編入生・新2年生 95名

4月10日 大学院入学生・転専攻学生 88名

図書館ガイダンス 1時間

対象：講座6講座 32名 日程：4月～8月

内容：図書館利用及びデータベースの使用法

図書館活用・情報検索講習会 各1～2時間

対象：学生・教官・職員の希望者 96名

日程：4月12日～5月30日

内容：ライブラリーツアー、山口大学蔵書検索、

情報コンセント利用、ALCネットアカデミー

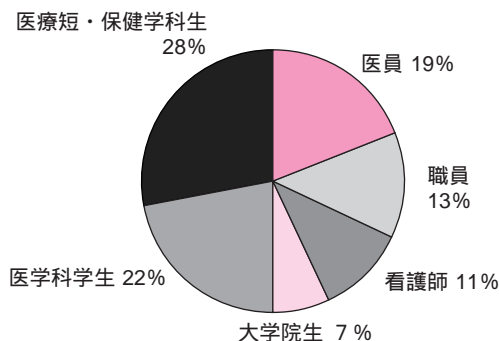
利用、文献検索講習会、オンラインジャーナル

24時間利用ガイダンス 0.5時間

対象：個人 126名 日程：毎週一回

内容：POWERPOINTによる入退館解説及び実習

ガイダンス・講習会参加者身分内訳



【工学部分館】

平成14年度前半のメニューと実績を示す。

文献検索講習会

対象：個人 57名 日程：5月下旬

内容：InsideWeb・Online Journal・

EnjoyJOIS・DNA・MagazinePLUS

24時間利用ガイダンス 0.5時間

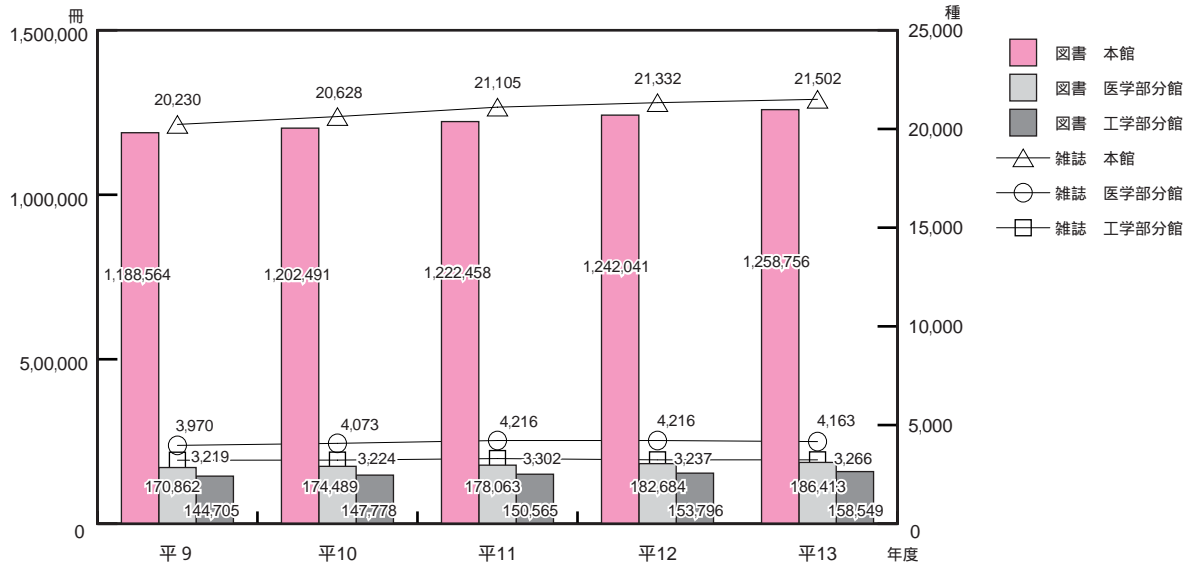
対象：個人 46名 日程：随時

内容：館内説明及び実際の入退館実習

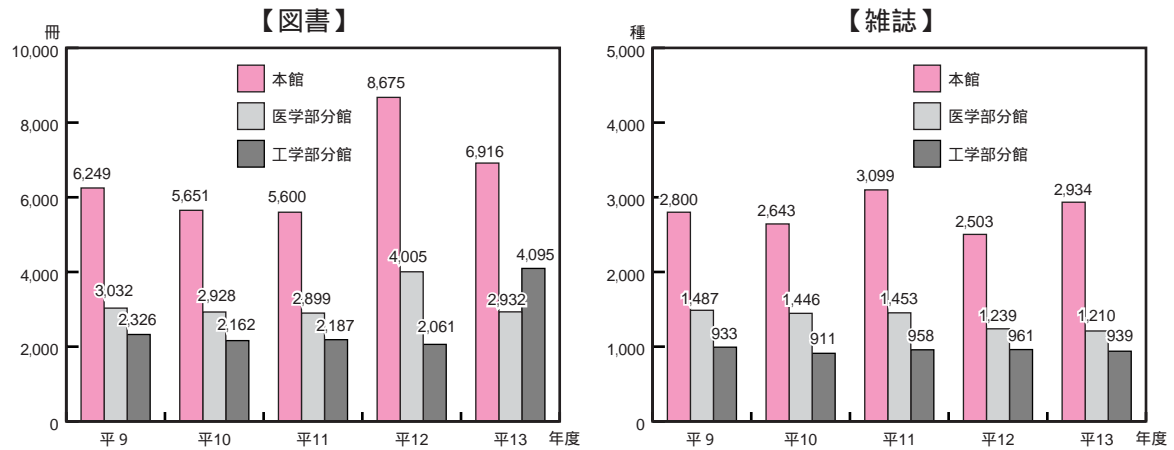


附属図書館業務統計 (平成9年～13年度)

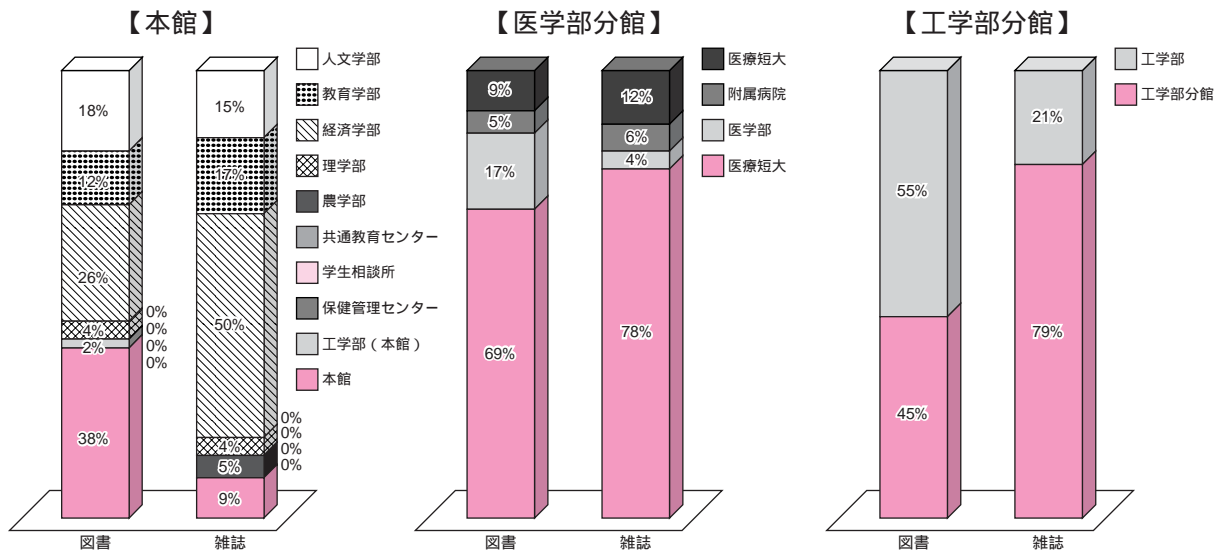
蔵書数



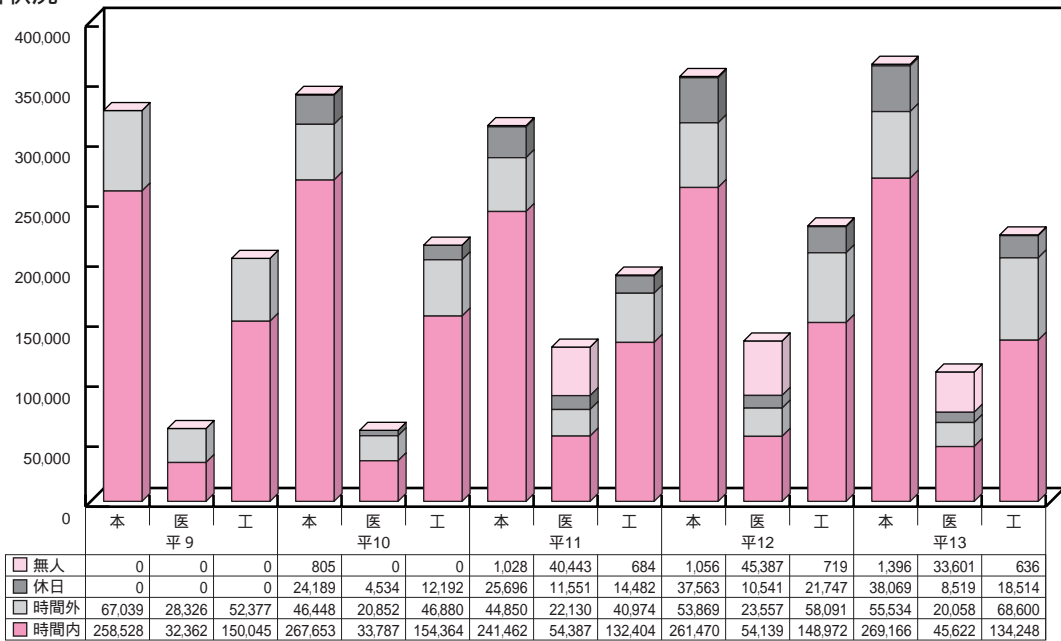
受入数



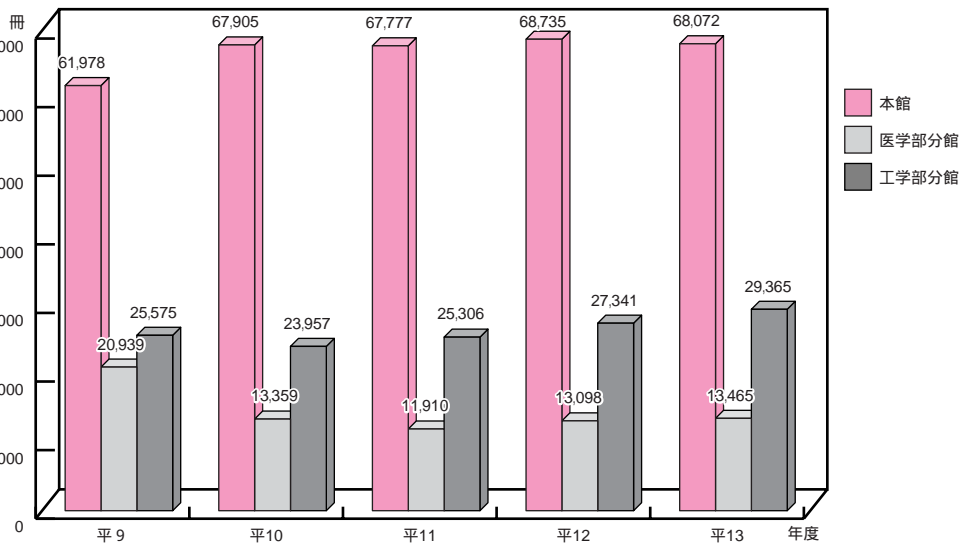
購入資料の集中度 (平成13年度)



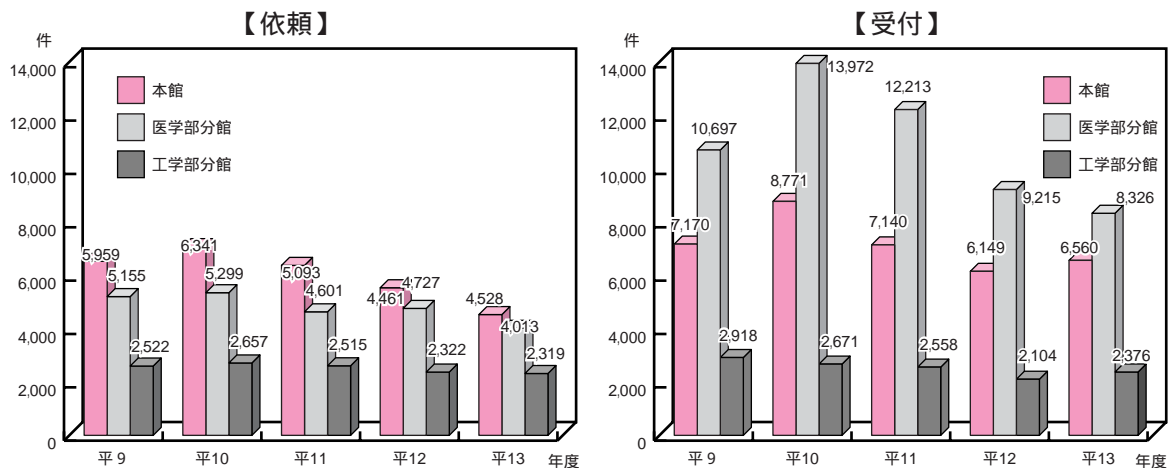
入館状況



貸出冊数



相互協力サービス



トピックス

外部評価報告書の刊行

附属図書館では、昨年12月6日に外部評価を実施しましたが、3月末に「外部評価報告書 - 知的情報基盤の拡充をめざして - 」を刊行しました。昨年9月刊行の「自己点検評価報告書 - < 知の広場 > の発展をめざして」に続くもので、今後の附属図書館の活動指針となるものです。報告書は、図書館HPにも掲載していますのでご一読頂きたいと存じます。

<http://www.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp/gaibu.files/>
<http://www.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp/jikoten/index.html>

本間家文書（補遺分）の寄贈

平成14年6月、山口市嘉川の旧家、本間家より、幕末明治期の文書（木箱10）の寄贈を受けました。本間家は、江戸期に地域の庄屋職を歴任し、明治期の当主である本間源三郎は初代嘉川村村長、県会議員、国会議員を歴任した方。本間家文書（約数千点）は、昭和30年代に山口大学に一括寄贈され附属図書館に蔵置していますが、その残りが新たに発見され、本間家のご厚意で寄贈頂いたものです。

今回のものも幕末期の文書が多数含まれた貴重なもので、経済学部木部研究室のご協力を得て、現在、文書リストを作成中です。



附属図書館学術セミナーの開催

平成14年6月19日（水）、工学部SCS教室において、附属図書館学術セミナーを開催しました。学術セミナーは、全学の学生・教職員に、急速に変化する学術情報の最新情報を紹介し、山口大学の学術情報基盤について考えていただく材料を提供するために企画したもので、今回初めての開催です。今回は、世界最大の文献情報データベースWeb of Scienceのトライアル開始に合わせて、「ISI社の目指す高品質な学術情報提供と今後について」ISI社の金子康樹氏、Nicola Hill氏の講演を行いました。

参加者は、工学部の教官・大学院学生を中心に約80名、山口地区SCS教室、学内LAN接続パソコンに同時中継し、全地区に配信され、講演後は活発な質疑応答がなされ、盛況でした。

MagazinePLUSとOPACのリンク作成

MagazinePLUSは、国立国会図書館が作成する日本最大の国内雑誌記事索引（総計520万件）のデータベースで、附属図書館から学内LAN経由で全学にサービスしています。

7月からMagazinePLUSの画面に本学の所蔵情報（OPAC）へのリンクを表示し、ボタンひとつで所蔵情報の確認ができるようになりました。（検索結果に【山口大学OPAC】と表示されます。）



ネットワークで教材提供（E-Learning）

附属図書館では、昨年度から、衛星放送を利用した語学学習教材の提供に着手しましたが、7月から「英会話」と「パソコン」番組の学内配信ライセンスを得て、ネットワークで教材番組を配信するサービス（E-Learning）を開始しました。

いつでも、どこでも好きな時に、同時に多くの受講者がレベルや理解度に応じて利用でき、習得度・成績もリアルタイムに把握できます。

あなたのPCからでも！ 図書館ホームページから利用願います。

（吉田地区限定のメニューがあります。）



INSPECの提供を開始

附属図書館は、メディア基盤センターと協力し、平成14年7月から九州大学情報基盤センターINSPECサービスの提供を始めました。INSPECは物理学、電気工学、エレクトロニクス、コミュニケーション、制御工学、コンピュータ関連などを収録とする文献情報データベースです。利用にあたっては、利用申請書が必要です。図書館ホームページの案内をご覧ください。

山口県大学図書館協議会総会（第6回）

平成14年7月24日（水）、山口大学附属図書館会議室において、第6回山口県大学図書館協議会総会を開催しました。同協議会は、山口県内の大学・高専・短大の図書館相互の連携と協力を図るため、平成9年に発足したものです。今回の総会では、電子ジャーナルの導入状況、大学からの情報発信における図書館の役割などについて、活発な意見交換がなされました。

本学関係教官著作寄贈図書

寄 贈 者	著 者 名	書 名
・渡 辺 幹 雄（経済学部）	渡辺幹雄著	ロールズ正義論再説
・森 下 徹（教育学部）	渡辺尚志編	幕末維新时期萩藩村落社会の変動
・荒 木 一 視（教育学部）	荒木一視著	フードシステムの地理学的研究
・友 定 啓 子（教育学部）	友定啓子「ほか」編著	幼稚園で育つ
・加 納 隆（理学部）	Takashi Kano	ISRGA field guidebook for major geologic units of southwest Japan
・纈 纈 厚（人文学部）	纈纈厚著	有事法制とは何か：その史的検証と現段階
・五 島 淑 子（教育学部）	小山修三、窪田幸子編	多文化国家の先住民：オーストラリア・アボリジンの現在
・鍋 山 祥 子（経済学部）	田野崎昭夫著	現代社会学のパースペクティブ
・林 徳 治（教育学部）	林徳治、宮田仁編	情報教育の理論と実践
・松 井 範 惇（経済学部）	スティーブン・デブロー著松井範惇訳	飢餓の理論
・中 内 伸 光（理学部）	中内伸光著	数学の基礎体力をつけるためのろんりの練習帳
・吉 村 弘（経済学部）	吉村弘「ほか」編著	グリーン共創序説
・小 倉 興太郎（工学部）	小倉興太郎著	無機化学概論
・宮 本 文 穂（工学部）	Ayaho Miyamoto	Maintaining the safety of deteriorating civil infrastructures



平成14年度 附属図書館各種委員会名簿

は委員長

運営委員会	近藤 喬一 (人文学部)
中村 和行 (館長)	福田 修 (教育学部)
芳原 達也 (医学部分館長)	亀谷 満朗 (農学部)
溝田 忠人 (工学部分館長)	中野 公彦 (工学部)
近藤 喬一 (人文学部)	神 哲三 (事務部長)
磯部 佳宏 (人文学部)	村上 章徳 (情報管理課長)
重岡 徹 (教育学部)	石井 道悦 (情報サービス課長)
福田 修 (教育学部)	
小林 一于 (経済学部)	本館図書委員会
城下 賢吾 (経済学部)	中村 和行 (館長)
石黒 勝也 (理学部)	近藤 喬一 (人文学部)
三浦 保範 (理学部)	磯部 佳宏 (人文学部)
原田 規章 (医学部)	重岡 徹 (教育学部)
山田 治 (医学部)	福田 修 (教育学部)
浜本 義彦 (工学部)	小林 一于 (経済学部)
福永 公寿 (工学部)	城下 賢吾 (経済学部)
亀谷 満朗 (農学部)	石黒 勝也 (理学部)
宮田 浩文 (農学部)	三浦 保範 (理学部)
渡邊 義文 (附属病院)	亀谷 満朗 (農学部)
立山 紘毅 (メディア基盤センター)	宮田 浩文 (農学部)
神 哲三 (事務部長)	神 哲三 (事務部長)
将来計画検討委員会	医学部分館図書委員会
運営委員会委員上記20名のとおり	芳原 達也 (分館長)
自己点検・評価委員会	佐々木功典 (医学科)
将来計画検討委員会委員上記20名及び	渡邊 義文 (医学科)
村上 章徳 (情報管理課長)	河内 茂人 (医学科)
石井 道悦 (情報サービス課長)	柳井 秀雄 (医学科)
上田 照賀 (図書館専門員)	山田 治 (保健学科)
	野垣 宏 (保健学科)
広報委員会	工学部図書・研究報告委員会
中村 和行 (館長)	溝田 忠人 (分館長)
芳原 達也 (医学部分館長)	浜本 義彦 (運営委員)
溝田 忠人 (工学部分館長)	福永 公寿 (運営委員)
近藤 喬一 (人文学部)	中野 公彦 (機械工学)
亀谷 満朗 (農学部)	松崎 浩司 (応用化学)
神 哲三 (事務部長)	樋口 隆哉 (社会建設)
村上 章徳 (情報管理課長)	三好 正毅 (電気電子)
石井 道悦 (情報サービス課長)	松藤 信哉 (知能情報)
	竹中 俊介 (機能材料)
企画検討委員会	M.L.Higgins (感性デザイン)
中村 和行 (館長)	柳 研二郎 (共通講座)
芳原 達也 (医学部分館長)	
溝田 忠人 (工学部分館長)	



会 議

- | | | |
|----------|--|--|
| 学 外 | | 14.5.23 ~ 5.24 第73回日本医学図書館協会総会
(於：松山市南海放送本町会館) |
| 14. 2.19 | 大学図書館等情報化支援会議
(於：国立情報学研究所) | 14.6.26 ~ 6.27 第49回国立大学図書館協議会総会
(於：鳥取県立県民文化会館)
・国立大学の法人化に向けての附属図書館の
対応
・電子ジャーナルを含めた学術情報の流通基
盤の充実に向けた方策
・今後の国立大学図書館協議会のあり方 |
| 14. 2.28 | NACSIS-CAT/ILL講習会担当者会議
(於：国立情報学研究所) | |
| 14. 3. 1 | 第3回山口県図書館協会理事会
(於：山口県立山口図書館) | |
| 14. 3. 5 | NACSIS-CAT/ILL評価会議
(於：国立情報学研究所) | |
| 14. 4.25 | 第50回中国四国地区大学図書館協議会総会
(於：高知第一ホテル)
・館種を超えた相互研修による図書館相互協
力の推進
・中国四国地区大学図書館研究集会の見直し | 14. 6.28 平成14年度山口県図書館協会定期総会
(於：山口県立山口図書館) |
| 14. 4.26 | 第29回国立大学図書館協議会中国四国地区協
議会(於：高知第一ホテル)
・国立大学法人化への移行に向けての体制
・第49回国立大学図書館協議会総会の協力体
制について
・研究基盤資料の整備方策について | 14. 7. 5 平成14年度参考業務研究部会委員会
(於：山口県立山口図書館)
14. 7.12 図書館振興県民のつどい実行委員会
(於：山口県立山口図書館)
14. 7.24 第6回山口県大学図書館協議会総会
(於：山口大学)
・電子ジャーナルの導入状況等
・メタデータ・データベースシステム構築へ
の対応
・平成14年度実務者研修会 |
| 14. 5.17 | 平成14年度山口県図書館協会役員会
(於：山口県立山口図書館) | |
| 14. 5.21 | 平成14年度国立大学附属図書館事務部課長会議
(於：学術総合センター) | |
| 学 内 | | |
| 14. 2. 1 | 第61回本館図書委員会
外部評価実施委員会
第105回運営委員会
・平成13年度学生用図書購入費「追加分」の
配分(案)
・平成13年度外国雑誌購入費の配分(案)
・平成13年度電子的情報資料選定(案)
・平成14年度の時間外・休日開館
・附属図書館事務組織の再編
・附属図書館とメディア基盤センターとの連
携(骨子案)について
・附属図書館将来計画
・研究基盤資料の整備 | 14. 4.18 第1回本館資料選定委員会
14. 4.19 第107回運営委員会
・附属図書館運営委員会規則の一部改正
・附属図書館各種委員会委員
・平成14年度附属図書館事業計画
企画検討委員会
14. 5.16 工学部分館図書・研究報告委員会
14. 5.21 第2回本館資料選定委員会
14. 6.11 第108回運営委員会
・平成14年度附属図書館事業計画
・平成14年度学生用図書資料費の配分基準
・学生用資料費の学部支援措置
・学長裁量経費
14. 6.21 医学部分館図書委員会
14. 6.28 第3回本館資料選定委員会
14. 7.19 第109回運営委員会
・平成13年度附属図書館収支決算
・平成14年度重点化経費要求結果
・平成14年度学長裁量経費要求
第62回本館図書委員会 |
| 14. 2. 7 | 工学部分館図書・研究報告委員会 | |
| 14. 2.26 | 企画検討委員会 | |
| 14. 3.15 | 第11回本館資料選定委員会 | |
| 14. 3.19 | 第6回将来計画検討委員会
第5回自己点検・評価委員会
第106回運営委員会
・平成14年度電子ジャーナルの導入
・平成14年度データベースの予算要求
・附属図書館将来計画(骨子案)
・研究基盤資料の整備方針
・メディア基盤センター規則及び同運営委員
会規則
第62回本館図書委員会 | |



研修

- | | | | |
|--------------|---|--------------|---------------------------------|
| 14. 2. 7 | 男女共同参画社会研修会（於：山口大学） | 14. 7.19 | 山口大学英会話（中級）研修（於：山口大学） |
| 14. 3. 9 | 図書館職員のためのホームページ講習会
（於：山口県立山口図書館） | | 参加者：蔵成雑誌情報係員、陶山メディア情報係員 |
| 14.3.14～3.15 | 参加者：上田専門員、堂迫情報サービス係員
日本語、中国語、韓国語の名前典拠ワークショップ（於：国立情報学研究所） | 14.7.22～7.25 | SCSによる大学図書館職員長期研修講義
（於：山口大学） |
| | 参加者：石井情報サービス課長 | | 参加者：県内大学図書館職員ほか |
| 14. 6.19 | 附属図書館学術セミナー「ISI社の目指す高品質な学術情報提供と今後について」
（於：山口大学） | 14.8.28～8.30 | 図書館職員著作権実務講習会（於：広島大学） |
| | 参加者：田中利用者サービス係員 | | 参加者：西垣雑誌情報係員 |
| 14. 7. 2 | 事務系職員啓発セミナー（於：山口大学） | 14.8.28～8.29 | 電子ジャーナルユーザー教育担当者研修会
（於：大阪大学） |
| 14.7.6～7.26 | 平成14年度大学図書館職員長期研修
（於：オリセンほか） | | 参加者：赤野情報リテラシー係員 |

人事異動

14.3.31	辞職	中野美智子	情報管理課長	"	田中 俊二	情報サービス課利用者サービス係 （医学部分館情報サービス係）	
任期満了退職		星井 敬子	情報管理課目録情報係	"	赤野 徹	情報サービス課情報リテラシー係 （同課電子情報係）	
任期満了退職		畑 祐子	情報サービス課資料サービス係	"	守永 盛志	情報サービス課メディア情報係 （同課情報サービス係）	
14.4.1	採用	高井 陽子	情報管理課図書情報係	"	田中 純子	情報管理課総務係 （情報サービス課資料サービス係）	
配置	交換	神 哲三	事務部長（久留米工業高等専門学校事務部長）	"	高崎 鈴枝	情報管理課図書情報係 （同課資料受入係）	
"		村上 章徳	情報管理課長（長崎大学附属図書館情報サービス課長）	"	山本 貞子	情報管理課雑誌情報係 （同課目録情報係）	
"		江見 伸子	情報管理課図書情報係長 （同課目録情報係長）	"	蔵成 愛子	情報管理課雑誌情報係 （同課資料受入係）	
"		三浦 博士	情報管理課雑誌情報係長 （同課資料受入係長）	"	大沢 恵子	情報サービス課利用者サービス係 （同課資料サービス係）	
"		岩戸 友行	情報サービス課利用者サービス係長 （同課資料サービス係長）	"	浅井 雅子	情報サービス課利用者サービス係 （情報管理課資料受入係）	
"		藤本 房枝	情報サービス課情報リテラシー係長 （医学部分館情報サービス係長）	"	原田 佳子	情報サービス課利用者サービス係 （情報管理課資料受入係）	
"		岡田 隆	情報サービス課メディア情報係長 （同課情報サービス係長）	"	後藤 友紀	情報サービス課情報リテラシー係 （同課情報サービス係）	
"		渡部 哲夫	医学部分館情報サービス係長 （情報サービス課電子情報係長）	"	堂迫 妙子	情報サービス課情報リテラシー係 （同課情報サービス係）	
"		高田美栄子	医学部分館情報サービス主任 （情報管理課総務主任）	"	陶山 敬子	情報サービス課メディア情報係 （情報サービス課資料サービス係）	
"		中川 秀夫	情報管理課図書情報係 （同課資料受入係）	14.5.1	採用	森永美智子	情報サービス課利用者サービス係
"		河本香代子	情報管理課図書情報係 （同課目録情報係）	14.7.31	辞職	後藤 友紀	情報サービス課情報リテラシー係
"		西垣 昇治	情報管理課雑誌情報係 （情報管理課資料受入係）				

編集後記

第23巻1号をお届けする。本号には、溝田忠人工学部分館長から「真夏の昼の夢」と題する大胆未来予測をご寄稿いただいた。2022年、20年後の山口大学と図書館の姿は如何に？ 一方、目下の大きな関心事である電子ジャーナル

コンソーシアムとWeb of Scienceの小特集を組んだ。利用ガイダンス報告、業務統計、トピックス、本号も盛り沢山で編集子は記事の短縮と配置に頭を悩ました。（石）

山口大学附属図書館報 「Library News」
Vol.23 No.1（通巻66号） 2002年9月30日発行
<http://www.lib-c.yamaguchi-u.ac.jp/>

編集・発行 山口大学附属図書館広報編集委員会
〒753-8516 山口市吉田1 6 7 7-1
TEL.(083)933-5183 FAX.(083)933-5186